

//REPORT//

ユネスコスクールオンライン意見交換会

3/16 開催 第8回「SDGs 目標達成に向けた海洋教育と異文化理解に関する大学生の取組
—ユネスコスクール支援大学(ASPUnivNet)の実践事例」



2020 年度より、ユネスコスクール事務局はユネスコスクールオンライン意見交換会を 1 か月～2 か月に 1 回のペースで実施することとなりました。今回は「SDGs 目標達成に向けた海洋教育と異文化理解に関する大学生の取組—ユネスコスクール支援大学(ASPUnivNet)の実践事例」と題して、対話の場をもちました。

■プログラム

時間	内容
16:00	オープニング 趣旨説明 ACCU
16:05	ユネスコスクールおよびASPUnivNet加盟大学としての玉川大学教育学部の概要 玉川大学 教育学部 小林亮氏
16:11	ユネスコクラブ全国サミットで作成したSDGsワークショップ(SDGs14「海の豊かさを守ろう!」)と大学間協同 玉川大学 ユネスコクラブ学生
16:18	異文化間の「正義の対立」における葛藤解決に向けたモラルジレンマ授業の試み 玉川大学教育学部小林ゼミ学生
16:30	ディスカッション
16:50	振り返り
17:00	クロージング

■「SDGs 目標達成に向けた海洋教育と異文化理解に関する大学生の取組—ユネスコスクール支援大学(ASPUnivNet)の実践事例」

玉川大学教育学部の小林亮教授、ユネスコクラブの学生、小林ゼミの学生より話題提供いただきました。以下、ご発表の概要です。

1. 玉川大学教育学部—ユネスコスクール加盟校&ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)加盟大学として

玉川学園は、小原國芳の提唱した「全人教育」を建学の理念としている総合学園です。1929年に創設されました。SDGs/ESD を平和で持続可能な社会の担い手を育てる「人づくり」の教育活動と捉え、SDGs の実践を通して平和、持続可能性、地球市民性、国際理解といったユネスコの進める価値教育の理念を効果的に児童生徒に伝えてゆける教師力の育成を目標としています。玉川大学は 2008 年にユネスコスクール(ASPnet)加盟校になりました。同じ 2008 年に、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)にも加盟したことにより、ユネスコの理念に基づく教師教育の推進がミッションとなりました。教育学部のカリキュラムポリシー(教育課程方針)にも SDGs 目標達成に向けた ESD 学習の推進が謳われています。

玉川大学の ESD 教師教育には主に 2 つ目標があります。1 つ目は、ユネスコスクールの学習テーマに焦点づけし、玉川学園の「全人教育」の伝統を生かした教師教育プログラムの構築を目指すことです。そのために、現職教員を対象としたプログラムや、教職志望の教育学部生を対象としたプログラム、そしてユネスコスクールへの直接支援も行っています。2 つ目は、ユネスコスクール・ESD 地域ネットワークの拡充と連携強化を目指すことです。ユネスコスクール拡充に向けた近隣教育委員会、特に町田市教育委員会、相模原市教育委員会への働きかけを行ったり、地域の公立小中学校との連携を強めるために、ユネスコスクール加盟申請の勧誘と支援、研究授業や ESD 実践における協同を行ったりしています。また、日本ユネスコ協会連盟、東京都ユネスコ連絡協議会との連携や大学ユネスコクラブのネットワーク構築し「ユネスコクラブ全国サミット」も実施しています。

2. SDGs ワークショップ SDGs14「海の豊かさを守ろう」～将来おすしが食べられなくなる?!～

2100 年、私たちはおすしが食べられなくなってしまうかもしれません。なぜかという、海の環境が汚染されているからです。今、海の環境が汚染されることによって、海の中や周辺にすむ生き物が住みづらい環境になっています。例えば、海にすむ生き物が安全に産卵できる場所が汚染され、産卵できなかつたり、海水の温度が上昇して住みかがどんどん北に追いやられたりしてしまいます。また、ゴミや油、化学物質などを体に取り込んでしまい、大量に生き物たちが死んでしまうことにより、生態系のバランスが壊れてしまいます。

では、海にはどんなゴミが多いのでしょうか。実は、プラスチックのゴミが大半を占めています。具体的にどんなプラスチックゴミが多いのでしょうか。海底ゴミはペットボトルやポリ袋、トレー、その他のプラスチック製品など私たちの身近にあるものが大半を占めています。海には大量のプラスチックゴミがあり、海鳥の90%がこれを間違えて飲み込んでしまいます。さらに、2050年までにはすべての海鳥がプラスチックゴミを飲み込んでしまうと言われており、深刻な問題になっています。プラスチックゴミにより苦しむ動物は海鳥だけではなく、クジラも苦しんでいます。死んだクジラからプラスチックゴミが見つかることは現在では珍しくなくなりました。近年では、イギリス、フィリピンなどで胃の中から40Kg、さらには100kg以上のプラスチックが見つかった例も

あります。

海洋プラスチックごみが増えると、海の生き物たちへの影響が出るだけでなく、海の産業へも影響があります。海洋生物に被害が出ると、本来とれるはずの海洋生物の漁獲量が減少してしまいます。また、ゴミのあふれる海での海水浴やダイビングを行う人が減り、観光業にも影響が出てきます。そして、私たちへも影響があります。マイクロプラスチックを飲み込んだ海洋生物が市場に出回れば、それらを口にする私たちの体内にもマイクロプラスチックが入りこむ可能性があるからです。

海洋ごみを減らすために私たちにできることは何でしょうか。まずは、普段の生活を振り返ってみましょう。何気なくごみを増やす生活をしていないか、チェックしてみましょう。そして、気づいたことを行動に変えてごみを減らしましょう。ちょっとした行動や意識の変化で私たちにもできることがたくさんあります。明るい未来に向けて、きれいで豊かな海を守っていきましょう！

3. 異文化間の「正義の対立」における葛藤解決に向けたモラルジレンマ授業の試み

モラルジレンマとは、コールバーグの道徳性発達理論に基づき、道徳的な価値葛藤を集団討議(話し合い)を通じて解決に導こうとする道徳教育の手法です。相矛盾する道徳価値が異なる行動指針を示すため、どちらを選んでもまずい結果になる葛藤状況のことで、日本では荒木紀幸(元兵庫教育大学)が理論化し、学校現場の道徳授業に広く取り入れられています。現在、世界で起きている「正義の対立」をエスカレートさせず、相互理解による平和で持続可能な社会づくりの心理的基礎を構築するには、民族間、国家間、宗教間で生じているモラルジレンマに目を向け、そこで起きている「正義の対立」を分析すべきではないかと考えています。また、異文化理解学習としてのモラルジレンマ授業の試みは、ユネスコスクール「学び」として有意義だと思います。私たちは、対立する相手がどのような立場で主張しているかを考えることにより、SDGs16「平和と公正をすべての人に」を実現できるのではないのでしょうか。

「表現の自由と他文化の尊重」をテーマに、異文化間モラルジレンマの事例を紹介します。授業で預言者ムハンマドの風刺画を見せた、フランスの中学校社会科教師サミュエル・パティさん(Samuel Paty)が2020年10月16日、パリ郊外で夕方学校を出たところをイスラム過激派のアブウラ・アンゾロフに殺害されました。犯人は犯行直後、現場付近で警察に射殺されました。フランスの風刺週刊誌 Charlie Hebdo に掲載されたイスラム教の開祖の預言者ムハンマドをからかった風刺画がイスラム教徒の怒りを買いました。フランス政府側は、ライシテ(政教分離)に基づく「表現の自由」は人間として最も重要な原則だ、どんな宗教的権威であっても、それを批判するのは基本的人権であり、禁止されるべきではないとしています。このように権利を制約することで多くの悲劇が起きてきた、と主張しています。一方、イスラム教徒にとって預言者ムハンマドは絶対の権威であり、それを冒瀆されることは人間として堪えがたい犯罪行為である。互いの宗教伝統に対する敬意が持てないなら多文化共生社会など決して実現しないと主張しています。この正義の対立事例をテーマに、玉川大学教育学部の小林ゼミの学生がディベートを行いました。

■ 正義の対立を超えて

話題提供と玉川大学教育学部の小林ゼミの学生のディベートを受け、参加者同士の対話の時間が持たれました。以下、話し合われた内容です。

-
- 正義の対立について、授業で扱い授業後に生徒の中にわだかまりや、モヤモヤが残れば、自分中の正義について考えたり、授業で扱ったトピック以外の正義の対立について知るきっかけにもなり、その後にも活かさせていけると思った。
 - いきなり相手の立場に立つのは、壁があり難しいと感じた。まずは、地球市民教育という世界共通の価値観を作ること、直接会って対話することで相手の意見を知ることを積み重ねていくと、お互いを理解できるのではないかと感じた。
 - ユネスコスクールは海外の国と繋がることができるという強みがあるので、様々な国に住む同年代の児童・生徒同士でお互いの文化や生き方を知り、国や文化を超えて友達になれるという体験をすることが大事なのではないかと感じた。
 - 参加いただいた先生たちが、教育に携わりたいと思っている学生たちに、答えのない問いにどのようにアプローチしていけばいいのか、アドバイスしていただき大変有意義な時間だった。アプローチは大きく分けて2つあり、1つ目は確実な違いをおさえること、もう1つが国境を越えて両者の共通の物差しのような普遍的な考え方やルールをおさえること。しかし、正義が対立すると、どうしても共通項を探すのが難しいので、教師自身がメタ認知的な視点を持ち、そのような子どもたちを育てていくことが、これからの教育に求められているのではないかと感じた。

※2020年度のユネスコスクール意見交換会は今回が最後となります。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。2021年度も引き続き開催を予定しております。次回の日程が決まり次第、テーマやお申込み方法などの詳細を[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)にも掲載します。2021年度も多くの方々にお会いできることを、ユネスコスクール事務局一同楽しみにしています！